

薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2014年9月）

【医薬品一般】

Q：小児の包茎治療に副腎皮質ステロイド軟膏を使用するか？（薬局）

A：小児の包茎は、通常治療の必要はなく経過観察で良いが、包皮炎や亀頭炎、排尿障害や排尿痛等の症状がある場合に、副腎皮質ステロイド軟膏（リンデロンTMVG軟膏0.12%等）による保存的治療を行い、83～100%の有効性が示唆されている（保険適応外使用）。副腎皮質ステロイド軟膏を包茎治療に使った場合の副作用報告はほとんどない。作用機序は明確でないが、①コラーゲン合成低下による皮膚の菲薄化、②抗炎症作用、③保湿作用等により、皮膚の伸展性を良くすると考えられる。多くの場合、1ヶ月程度で効果が現れ、長くても半年程度で包皮がむけるようになる。

Q：人工甘味料でもインスリンが分泌されるか？（薬局）

A：人工甘味料は、甘味度が砂糖の数百倍で、摂取エネルギーが抑えられること等から、糖尿病患者用や、低カロリーの食品や飲料等に使用されている。甘味受容体に人工甘味料が結合することによりインスリン分泌を惹起する可能性があり、以下の報告がある。

- ・味蕾にある甘味受容体のT1R2とT1R3は、味蕾以外の細胞や臓器にも存在する。甘味受容体のアゴニストになりうるのは、基本的に甘いと感じる物質で、グルコース、スクロース、グリシンや人工甘味料等である。
- 人工甘味料スクラロースを単離膵島に添加すると、濃度依存的にインスリン分泌を促進し、グルコースによるインスリン分泌も増強した。また、小腸の甘味受容体の活性化により、インクレチンの分泌が誘導された。

Q：選択的エストロゲン受容体作動薬（Selective Estrogen Receptor Modulator: SERM）は、男性骨粗鬆症にも効果があるのか？（薬局）

A：男性では、加齢に伴い血中遊離エストロゲンおよび遊離テストステロンのいずれも有意に減少するが、骨量の減少は主にエストロゲンの減少による。男性患者でも必要であれば、アンドロゲンのみならず、女性化をきたさない範囲でエストロゲンの補充が考慮され、エストロゲン製剤の中でエストリオール（エストリールTM等）と両性混合ホルモンのデポ剤（ボセルモンデポーTM筋注等）は、男性骨粗鬆症に適応を有する。血中エストロゲン濃度が低値の症例に、SERMのラロキシフェンが有効であった報告があり、女性化作用の弱い女性ホルモン剤として応用できる可能性が示唆されている（保険適応外使用）。

【安全性情報】

Q：子どもが喘息で吸入ステロイド薬を使用しているが、身長発達に影響ないか？（一般）

A：吸入ステロイド薬は、気管支喘息の長期管理における基本治療に位置付けられている。身長発達には様々な要因が影響し、吸入ステロイド薬の影響を詳細に検討するのは難しい。通常量の吸入ステロイド薬（ベクロメタゾンプロピオン酸エステル 400 μ g/日）程度であれば、ほとんど影響がないとする報告もあるが、開始当初の1年間に1.0~1.5cm程度の有意な成長抑制を認めた報告がある。最終的な身長発達に対する影響を検討するために、成人に達した際の身長を調査した報告では、最終身長を抑制しなかった。従って、症状に応じて吸入ステロイド薬を適切に使用すれば、最終的に身長抑制が臨床的問題となることはないと考えられる。

Q：副腎皮質ステロイドによる精神症状とは、どのような症状か？（一般）

A：副腎皮質ステロイドによる精神症状は、多幸感、そう状態、情緒不安定、不眠、抑うつ、行動の変調、自殺企図など多様である。コルチゾール、デキサメタゾンが最も発現頻度が高く、次にプレドニゾンが高い。発現時期は、早期出現型（治療開始後2週間くらいまでに出現し、減量で急速に消失）、中期発現型（治療開始後2週間~1ヶ月くらいから発現し、投与量がある程度減量されるまで持続）、後期発現型（治療開始後数ヶ月してから問題となる）に分類され、早期と中期が多い。危険因子として、①女性、②プレドニゾン換算で40mg以上の高用量、③長期投与等があげられるが、投与量と精神症状の発現の潜時、持続時間、程度、病像の種類との関係に相関はない。投与後の経過と神経症状の特徴については、以下の3群に分類される。

1群	投与後、一過性急性精神症状（そう状態が主体）が出現し、その後完全寛解し、精神面に異常を残さない。初発年齢は平均35歳と比較的若い。
2群	一過性急性精神症状が消退した後も慢性欠陥状態（感情鈍麻、意欲、自発性低下）がみられる。初発年齢が平均48歳と比較的高い。
3群	精神症状と基礎疾患の関連性が否定できない。

【その他】

Q：学校には、学校薬剤師を必ず置かなければならないか？（一般）

A：学校保健安全法第23条第2項において「大学以外の学校には学校歯科医及び学校薬剤師を置くものとする」とあり、同条第3項において「学校医、学校歯科医及び学校薬剤師は、それぞれ医師、歯科医師又は薬剤師のうちから、任命し、又は委嘱する」となっている。学校保健安全法施行規則第24条「学校薬剤師の職務執行の準則」として、以下の7項目があげられている。

- ① 学校保健計画及び学校安全計画の立案に参加
- ② 環境衛生検査に従事
- ③ 環境衛生の維持及び改善に関する必要な指導及び助言
- ④ 健康相談に従事
- ⑤ 保健指導に従事
- ⑥ 学校で使用する医薬品、毒物、劇物、並びに保健管理に必要な用具及び材料の管理に関する必要な指導と助言、及びこれらのものについて必要に応じた試験、検査又は鑑定
- ⑦ その他、必要に応じ、学校における保健管理に関する専門的事項に関する技術及び指導に従事

Q：浅漬の漬物を製造し販売するが、野菜の殺菌方法は？（一般）

A：浅漬は、加熱や発酵の工程がなく、製造工程で完全な殺菌ができないことから、洗浄、殺菌、低温管理（すべての工程で10℃以下）など、原料から製品までの一貫した衛生管理が必要である。原材料は、土砂、昆虫等の異物を十分に除去した後、飲用適の水を用いて流水で十分洗浄し、次のいずれかの方法により殺菌を行う。

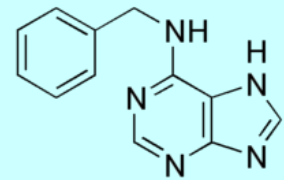
① 次亜塩素酸ナトリウム〔100mg/L（100ppm）で10分間又は200mg/L（200ppm）で5分間〕又はこれと同等の効果を有する亜塩素酸水（きのこ類を除く）、次亜塩素酸水並びに食品添加物として使用できる有機酸溶液（酢酸、乳酸、クエン酸等）等で殺菌した後、飲用適の流水で十分すすぎ洗いする。塩素濃度の管理を徹底し、確認を行った時間、塩素濃度及び実施した措置等を記録する。

② 75度で1分間加熱、又はこれと同等以上の効力を有する方法で殺菌する。温度管理を徹底し、確認を行った時間、温度及び実施した措置等を記録する。

厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課長通知（食安監発1213第2号 平成25年12月13日）

Q：育毛剤の成分サイトプリンの作用は？（薬局）

A：サイトプリン（Cytosine：CPT）の別名は6-ベンジルアミノプリンで、医薬部外品の育毛剤に配合されている。毛根細胞内の髪の毛の成長に必要な蛋白質であるBMP（Bone Morphogenetic Protein：骨形成因子）やエフリン（Ephrin：神経や血管の形態形成因子）の生成促進作用、休止期毛から成長期毛への転換促進作用、毛幹の伸長促進作用等がある。



サイトプリンの構造式